

日 時：平成 29 年 1 月 15 日(日) 11時30分～12時30分
 場 所：祝谷大地ケ田遺跡 6 次調査・現地（松山市祝谷六丁目）
 主 催：公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団（埋蔵文化財センター）

祝谷大地ケ田遺跡6次調査の発掘調査説明会

今回の発掘調査は造成工事に伴うもので、調査では弥生時代の貯蔵用の穴と古墳時代の前方後円墳が検出されました。大地ケ田遺跡では、今回を含めて6回の発掘調査を行い、調査地一帯は、弥生時代には集落の貯蔵施設が置かれ、古墳時代には前方後円墳や円墳が築かれた墓地（墓域）であったことが、明らかになってきました。

■ 前方後円墳(祝谷9号墳)

- ・馬蹄形(馬のヒツメ形)の周壕（県内で初めての発見）
- ・周壕の内側・外側に石が貼り付けている（四国では初めての例）
- ・全長31.5m、墳長(墳丘の長さ)27.1m、後円部の直径19.4m、前方部の長さ7.7m

前方後円墳からは、道後地域を眺めることができることから、道後地域を治めていたリーダーの墓と考えられます。また、墓の形や馬形埴輪などは、西日本地域で発見されるリーダーの墓と同じ特徴をもつことから、大和政権とも関係のあった豪族の墓と考えられます。



イメージ
 H21年度特別展「ハニワの世界」笹葉山2号墳(奈良県田原町)



馬形埴輪「たてがみ」出土のようす

祝谷大地ケ田遺跡の調査

古墳からは道後地区が見渡せませす



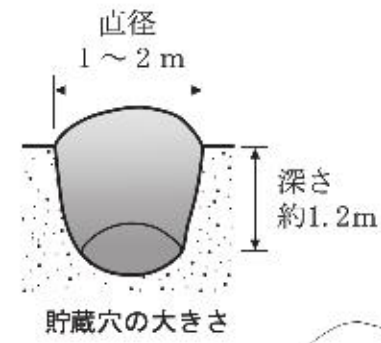
前方後円墳(祝谷9号墳)

周壕の外側石列

■ 弥生時代(約2100年前)

貯蔵穴 190基

- 平面が円形 185基 … 直径1~2m
深さ1.2m (最も深い)
- 平面が四角形 5基 … 一辺1.8~2.1m
深さ0.1m (最も深い)



過去の発掘調査



【祝谷8号墳】横穴式石室 (平成25年度調査)



【祝谷6号墳】2つの横穴式石室 (平成24年度調査)

≡ 二展示会 (3~6次調査分)

■ 古墳時代(約1400~1550年前)



【祝谷7号墳】モリノクワ 装飾須恵器の小像



【祝谷6号墳】タチノエ 大刀の柄 (模様入り)



【祝谷9号墳】ハチノウ 大刀の柄 (鳳凰の模様)



【祝谷6号墳】セイドウカン 青銅鏡